

# 2025年民間コメ輸入急増は国際市況の影響も

特別理事研究員 内田多喜生

## 1 急増した2025年の民間コメ輸入

第1図は15年以降の国家貿易枠外の民間コメ輸入量(341円/kg(従量税)の枠外関税を支払い輸入)の推移である。15年から24年まではほとんどの年で1,000トンを下回って推移していたが25年は急増し96,834トンに達した。これは24年の95倍である。

この輸入量は日本の24年度のコメ国内消費仕向け量(精米ベース)661万トンでみると約1.5%にすぎず、国内需給への影響は量で見れば小さかったとみられる。ただし、この輸入急増は以下のように国際市況の影響もあったとみられ、今後の動向を注視する必要がある。

## 2 民間コメ輸入と国内のコメ価格および在庫水準

民間コメ輸入の急増の背景には、周知のとおり「令和の米騒動」と呼ばれる24年後半からのコメ価格の高騰と需給のタイト化がある。まず、価格面で輸入米と国産米を比較したものが第2図である。

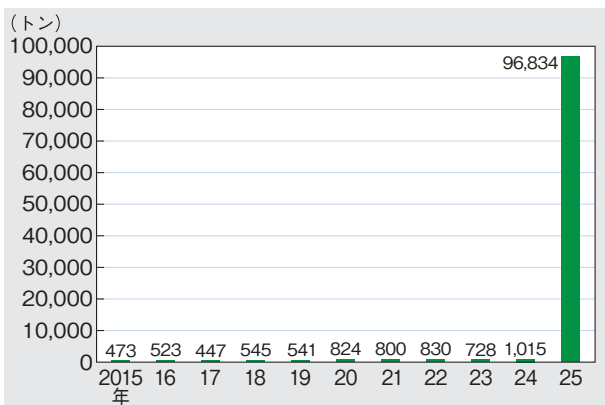
具体的には国内のコメの相対取引価格(玄米価格を精米換算)と輸入米価格(CIF価格)を比較した。また、輸入価格に関税相当額とし

て1kg当たり341円を単純に加えた推定輸入価格も示した。第2図からはCIF価格に関税相当額を加えたベースでは25年春から国内相対取引価格との差が縮小し、場合によっては下回る水準になったことが示唆される。

次に、コメの需給についてである。第3図は25年のコメ月別輸入量と国内のコメ民間在庫とその前年比の動きをみたものである。同図から例年どおり出来秋の年末をピークにコメ在庫量は減少していくが、25年前半は前年比でも大幅マイナスで推移し、需給のタイト化が同時に進んでいたことがわかる。そして、民間コメ輸入量は民間在庫水準が低下するにつれ増加し、ピークは7月につけている。

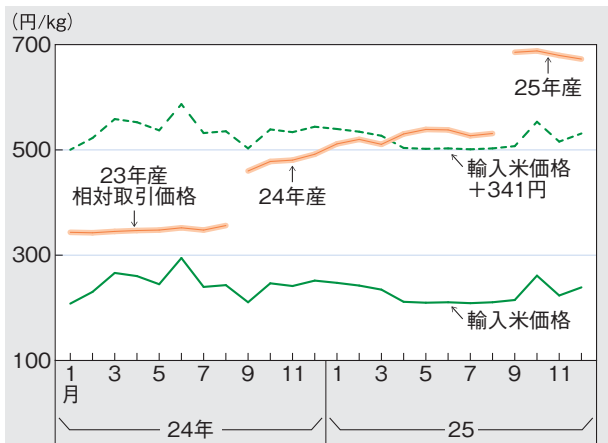
このように第2図、第3図から2025年4月～8月頃の輸入量急増には①関税相当額を加えたベースでの輸入価格と国内相対取引価格の価格差の縮小、②民間在庫水準の低下、③25年産豊凶が不透明な期間などの背景があったとみられる。なお、10月以降25年産のコメ相対取引価格との差はさらに拡大したが民間コメ輸入量は10月以降大きく減少している。これは第3図のように25年産の出回りにより民間在庫水準が大幅に回復し、需給が緩和し

第1図 コメの国家貿易枠外輸入量の推移



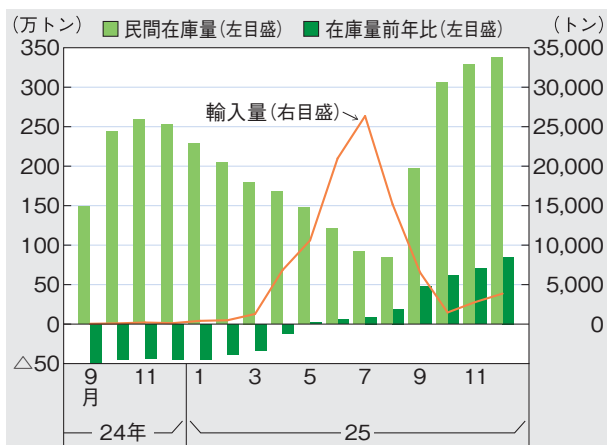
資料 「財務省」貿易統計  
(注) 玄米・精米合計

第2図 輸入米価格と国内産米相対取引価格の推移



資料 財務省「貿易統計」、農林水産省「相対取引価格の推移(令和3年産～令和7年産)」

第3図 コメの国内民間在庫量の月次推移



資料 農林水産省「米穀の取引に関する報告」、財務省「貿易統計」

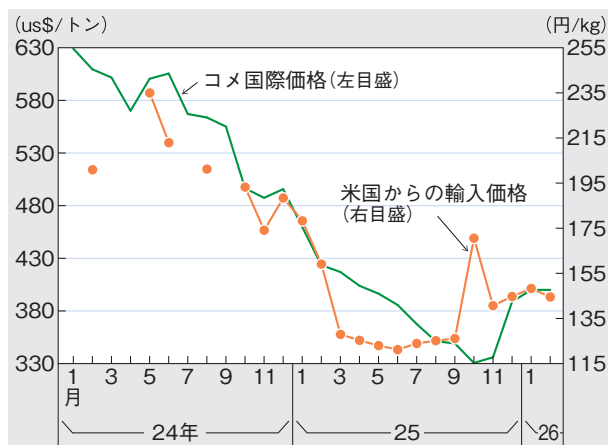
たことも影響しているとみられる(第3図)。

### 3 コメ輸入急増には国際市況の影響も

ここで第2図をみると、24年産以降の国産のコメ価格が大きく上昇する一方で、コメの輸入価格は25年に入り下落傾向にあったことがわかる。これはどのような背景によるものであろうか。そこで24年1月以降のコメの国際価格(ここではタイ産5%碎米)とアメリカからの輸入価格(精米)を月次でみたものが第4図である。なお、25年の民間コメ輸入量はアメリカからが約75.6千トンで圧倒的に多く、以下台湾7千トン、ベトナム4.6千トンが続く。

第4図からはコメの国際価格が25年10月のボトムまで継続的に低下していたことがわかる。ここで24年以降のコメ国際市況についてみると、24年前半まではインドの輸出禁止、エルニーニョなどによる供給不安で高位にあったがその後は輸出国の豊作や在庫の積み上がりなどにより一転して低下傾向で推移したとされている。そして、アメリカからのコメ輸入価格も国際市況の動きとほぼ同じ動きを示している。為替相場をみると25年のドル円レートは24年との比較で大きな変動はなかったため、アメリカからのコメ輸入価格下落は国際市況の影響もあったとみられる。品種や国別輸入動向をさらに詳細に検討すべきだが、全体としてみれば25年は国内のコメの価格高騰だけでなく、国際市況の軟化が民間コメ輸入急増の背景の一つであったことが示唆される。

第4図 コメ国際価格と輸入米価格の推移



資料 財務省「貿易統計」、IMF Primary Commodity Prices

### 4 消費者の国産米志向は依然強いが

25年10月以降はピークに比べ月次民間コメ輸入量は大幅に減少している。これは在庫の回復もあるが、消費者の国産米志向が依然強いことも影響しているとみられる。例えば、日本生協連が25年10月に実施した「お米についてのアンケート調査」では、「お米を買うときに重視すること」の質問に対し「国産米である(83.4%)」が圧倒的多数を占めている。ただし一方で、「価格が安い」の回答も33.1%と3分の1を占め価格水準によっては国産米だけでなく輸入米も選択肢となることに留意する必要がある。

25年の民間コメ輸入急増は国際市況や為替レートが国内コメ需給に影響をもたらす度合いが高まったことを示唆するとみられる。国内産の供給が不安定化すれば、今後もこうした事態が生じる可能性は高いとみられ、国際市況の影響を受けにくい国内の安定的なコメ生産体制の構築が求められよう。

#### <参考資料>

- ・内田多喜生(2025)「コメ民間在庫の月次推移と価格変動」『農中総研 調査と情報』web誌、11月号
- ・西川邦夫(2025)『コメ危機の真相』日経BP・日本経済新聞出版
- ・荒幡克己(2025)『令和米騒動－日本農政失敗の本質－』株式会社日経BP・日本経済新聞出版
- ・日本生活協同組合連合会ニュースリリース「2025年お米に関するアンケート調査」2025年11月20日付

(うちだ たきお)